

平成29年度第2回 国頭村小学校交流学習

国頭村立奥間小学校及び村内へき地5校（北国・佐手・奥・安波・安田）

【村の特性と主体性を発揮した村教委の目標達成のためのカリキュラムマネジメント】

「特色ある学校づくり」、「開かれた学校づくり」、「学校の自主・自律性」など、次期学習指導要領改訂に向けて各学校の『カリキュラムマネジメント』が議論で取り上げられている。

この論点の対象を市町村教育委員会に置きかえると「地域の特色ある学校づくり」、「地域に開かれた学校づくり」、「市町村教育委員会の自主・自立性」となる。国頭村は沖縄県内でも、少子高齢化、地域の過疎化が深刻な地域である。「小学校交流学習」は、まさに学校教育における地域課題克服に向けた市町村委員会の独自で独特の取り組みと言える。交流学習実施要項には以下のように目的が示されている。

《目的》

- (1) 各学年の発達段階に応じ、他校との交流を通して自己を見つめ、協調性・適応性や意欲の向上を図り、地域のへき地性を克服し児童の社会性の育成に期する。
- (2) 交流学習を通して児童の生活経験及び学習経験を豊かにし、ものの見方や考え方を拡充させる。
- (3) よい思い出をつくらせ、友情の目を育てる。
- (4) 他校の児童の中で集団行動から自己を見つめる。
- (5) 教師の研修交流を深めて、学習指導及び授業改善に役立てる。



さて、上記の目的は達成されたであろうか？交流学習の事業が始まっておよそ20年になる。平成25年度からは、奥間小学校と辺土名小学校で年1回ずつ実施される、結果へき地の子ども達とへき地の先生方は年2回の交流学習と研修となる。受け入れ校の2校にも様々な準備や調整に負担をお願いすることとなるが、



快く受け入れてくれる校長先生と職員に感謝である。そして何よりも村教育委員会で主催し、職員の旅費や教材費等を負担し、村内すべての子ども達の「学びの保障」と教師の専門性の向上に熱意を傾けられていることに敬意を表したい。この交流学習で教師たちの授業の質が高まり、子ども達の資質を高め、さらに教師の専門性と授業力の向上がなされていることは、「教師が子どもから学び」、「教師が同僚から学び」両者の人間性を高める『互いの成長の授業』として価値ある交流学習事業ではないかと考える。

〔6年〕 6年生の教室では、2校時安波小のM先生による道徳の時間、3校時は佐手小のY先生による国語、4校時には安田小のG先生による算数の授業が行なわれた。3者ともへき地校の先生である。国頭村教育委員会では、授業改善における理念を「一人残らずすべての子が参加する、協同と対話のある学び合う授業づくり」として村の教育施策を提案している。



つまり、授業者が違って各学校での授業スタイルが同じなので、授業者も子ども達にも授業における違和感や戸惑いはない。さらに村教育委員会では子ども達の交流学習の機会を、特にへき地校の先生方の互いの授業を見合う研修の機会として位置付けている。教師の授業力の向上に向けて教育委員会の計らいに感謝である。



さらに、沖縄県は「学力向上推進プロジェクト」において小中連携した授業改善を目指すとした。午後の焦点授業（公開授業）と研究協議会には国頭中学校の職員も参加して授業づくりの研究協議を深めることができた。本村の取り組みが県の推進プロジェクトの実現に向けて進められていることにも大きな意義と期待を感じる。下の3枚の写真、詩の教材「イナゴ」の授業である。授業者は、音読のあと、イナゴの写真をグループに配布し対話による学びを促した。その後、書き込みへと授業を展開し対話による「見方・考え方」の深まりや広がりへとつなげていった。

さらに、沖縄県は「学力向上推進プロジェクト」において小中連携した授業改善を目指すとした。午後の焦点授業（公開授業）と研究協議会には国頭中学校の職員も参加して授業づくりの研究協議を深めることができた。本村の取り組みが県の推進プロジェクトの実現に向けて進められていることにも大きな意義と期待を感じる。下の3枚の写真、詩の教材「イナゴ」の授業である。授業者は、音読のあと、イナゴの写真をグループに配布し対話による学びを促した。その後、書き込みへと授業を展開し対話による「見方・考え方」の深まりや広がりへとつなげていった。



[4年道徳の時間] 「お願い協力して」 授業者：北国小K先生

「助け合い」と「協力」。意図してこのテキストか？

素敵な授業とは…自然につながり、当たり前を支え合う授業。

自分のおでこに張られたシールの色と同じ仲間同士がつながる。しかし言葉を発してはいけないルールである。さらに自分の色は自分には見えない。子ども達は互いに助け合うこととつながることが必然となる。しかも判断は仲間によだねられる。

子ども達は、必死になって言葉以外のコミュニケーションで仲間に意思を伝える。仲間を信じるしかない状況である。和やかに楽しく目線がつながる。見ている先生方の頬も緩む。一言でいうと「楽しそう」である。結果、全員が同じ色の仲間同士につながることができた。子ども達も「やった〜」歓喜の声。授業者の授業デザインに圧巻！

現在の教室にほしい力がある。

- ・対話的コミュニケーション能力
- ・解決に向かう意思と力
- ・助け合い、支え合う力
- ・他者への理解を示す力

いずれも、現在の学校課題や社会的課題を背景とした学校



に求められる「力」である。わたしのわずかな授業観察の間にすべてを拝見させてくれた気がした。感謝！

[焦点授業] 授業者：奥間小学校 S先生 「水溶液の性質」



午後に提案された焦点授業。本日の交流学习に合わせ国頭村教育委員会は教師の授業力の向上を目指す研修機会として学びの共同体SVの齋藤智哉先生（國學院大學准教授）を招聘した。

授業は6年理科（S先生）と5年国語（M先生）の2本立てである。午後からは国頭中学校の先生方の参加もあった。教師の授業力の向上、子ども達の学びの保障はやはり互いの授業から、教室の事実から学ぶことが大切である。授業を提案した2名の教師には敬意

を表したい。私はこのクラスを1年生の頃から見続けてきた、様々な苦境や困難を教師達と乗り越えてきた経緯がある。本日の授業でも私は1日彼らに視線を送っていた。2〜4校時ではへき地の先生方が授業を行ったからか表情が強張り緊張感が見られたが、5校時は奥間小のS先生で明らかに子ども達の表情が違った。私の頬も緩み安心して子ども達を見つめることができた。1年生の時、国語の「おてがみ」の授業で忘れられない子どもの発言がある「はじめてもらう手紙だから、うれしくて、うれしくて、



死んでもいいくらいうれしい気持ちになっているんだよ。」…この子達も6年生、来年は中学生となる。この子達には大量の知識の注入より以前に大切なことがある。それは個の尊厳と個性の尊重である。様々な事情と様々な環境を背景に育ってきた。奥間小学校、国頭中学校のすべての教師達がこの子らに理解を示し未来に向かって成長を見守っていくことを期待する。上の写真、夢中になって実験に挑む児童の姿。実験器具の使い方にも助け合い、支え合う姿が確認できた。S先生との関係も良好であることは一目瞭然である。担任の教師は今年赴任された教師、子ども達のS先生と向き合う表情、理科の時間における「仲間と仲間が向き合う表情」から学級経営・授業経営のヒントを見つけてほしい。この教室のすべての児童、「一人残らずに…」こだわり、みんなが安心して安らげる「私の居場所」としての教室を準備することが教師の使命となる。



[授業研究協議会] 講師：齋藤智哉先生

5校時終了後、村内のすべての教師が集い、焦点授業を中心とした授業研究会が行われた。素晴らしい村教委員会の企画であると考え。本村は中学校が一つに統合され、すべての小学校の子どもは中学校でつながることとなる。7つの小学校では子ども達が中学校へ進学した時、戸惑いや違和感がないように各学校でも日常的な授業改善が必至となってくる。研究協議では各学校での実践や授業の不安や疑問も他者と共有する。授業づくりの難しさ等、本音の言葉で交わすことが安心を獲得する。 国頭学びの会ゆい

